

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(平成 29 年 6 月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪市港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 I - 1
- 2. 工事の実施状況 I - 2
- 3. 調査結果の概要 I - 3

II 事後調査結果

- 1. 陸域生態系（鳥類） II - 1

I 事後調査の概要

1. 調査概要

平成 29 年 6 月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表－1 に、調査地点の位置は図－1 に示すとおりである。

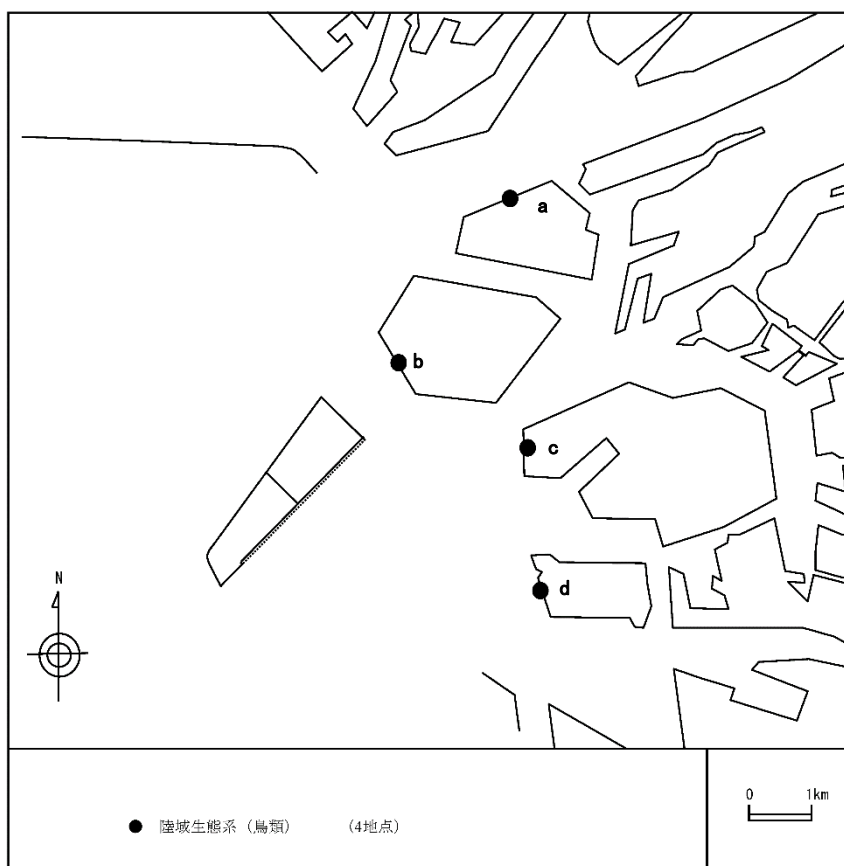
なお、「大阪湾新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく調査として平成 29 年度は平成 29 年 5 月、6 月、8 月、平成 30 年 2 月に実施する。

表－1 事後調査の概要（平成 29 年 6 月）

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）表－1

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4 点 [a, b, c, d]	6 月 20 日、21 日	4 回/年

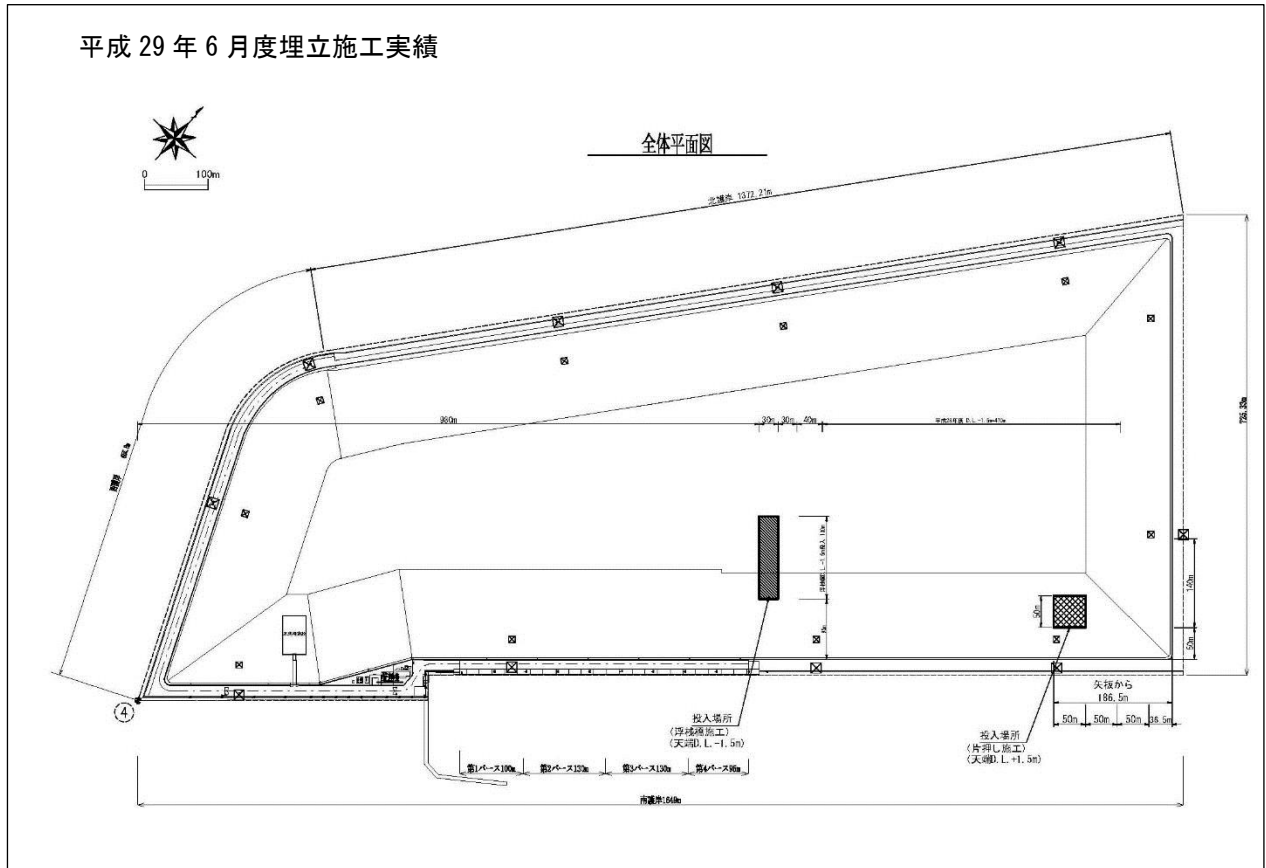


図－1 陸域生態系（鳥類）の調査地点（平成 29 年 6 月）

2. 工事の実施状況

平成 29 年 6 月の工事の実施状況は、図-2 に示すとおりである。

大阪沖処分場平面図



埋立量(m ³)	進捗率(%)
4,176,839	29.9

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図-2 工事の実施状況 (平成 29 年 6 月)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で8目18科32種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点bが最も多く110羽であり、次いで調査地点cの65羽、調査地点aの37羽、調査地点dの26羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点cが最も多く20種であり、次いで調査地点bの16種、調査地点aの11種、調査地点dの7種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点bにおける主要な出現種は、カワウ（ペリカン目ウ科）、コアジサシ（チドリ目カモメ科）、ウミネコ（チドリ目カモメ科）、シロチドリ（チドリ目チドリ科）、カルガモ（カモ目カモ科）、カイツブリ（カイツブリ目カイツブリ科）、スズガモ（カモ目カモ科）であった。

事業実施前（平成10年6月：調査地点の位置は、平成29年度調査の調査地点に同じ）に実施した鳥類調査の結果は、4地点合計で9目19科26種であり、事業実施前と比べて多くの種類が確認された。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分	平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月	
出現状況	目	8	8	10	9
	科	18	17	21	19
	種	35	37	37	26
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ (35.4%)	ヒドリガモ (18.1%)	トウネン (32.2%)	ムクドリ (42.6%)	
	トウネン (27.2%)	ホシハジロ (11.0%)	コアジサシ (8.4%)	スズメ (12.3%)	
	カワウ (8.8%)	キンクロハジロ (7.6%)	シロチドリ (7.3%)	ツバメ (12.3%)	
	カルガモ (7.1%)	カワウ (6.1%)	アジサシ (4.5%)	コアジサシ (9.6%)	
	スズメ (4.5%)	スズメ (5.0%)	ハシブトガラス (4.3%)	ドバト (6.5%)	

調査地点		a	b	c	d	合計
平成9年8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

II 事後調查結果

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）[平成29年6月分]

調査日：平成29年6月20日、21日

No.	目	科	種	区分	地点別出現個体数				計
					a	b	c	d	
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥		4			4
2	ペリカン目	ウ科	カワウ	留鳥	15	50	4	7	76
3			ウミウ	冬鳥			3		3
4	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ	留鳥	1				1
5			ダイサギ	留鳥			5		5
6			コサギ	留鳥			2		2
7			アオサギ	留鳥		3	5		8
8	カモ目	カモ科	カルガモ	留鳥		4	4		8
9			ホシハジロ	冬鳥			3		3
10			キンクロハジロ	冬鳥			1		1
11			スズガモ	冬鳥		4			4
12	タカ目	タカ科	ミサゴ	留鳥			1		1
13			トビ	留鳥				1	1
14	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥			2		2
15			シロチドリ	留鳥		5			5
16		シギ科	キョウジョシギ	旅鳥		2			2
17			イソシギ	留鳥			1		1
18		カモメ科	ウミネコ	留鳥		5	6	7	18
19			コアジサシ	夏鳥	8	18	2	4	32
20	ハト目	ハト科	ドバト	移入種	1		1		2
21			キジバト	留鳥	1				1
22	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	留鳥	2	2			4
23		ツバメ科	ツバメ	夏鳥			2	2	4
24		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥			2		2
25		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	2		5		7
26		ウグイス科	ウグイス	留鳥	1				1
27			セッカ	留鳥	1	2	2		5
28		メジロ科	メジロ	留鳥	2		1		3
29		ハタオリドリ科	スズメ	留鳥	3	3	11	3	20
30		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥			3		3
31		カラス科	ハシボソガラス	留鳥		1			1
32			ハシブトガラス	留鳥		3	3	2	8
				目数	5	6	7	4	8
合計（8目18科32種）				科数	9	11	16	6	18
				種類数	11	16	20	7	32
				個体数	37	110	65	26	238

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成28年度生物リスト」(国土交通省 2016)に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」((財)日本野鳥の会大阪支部、2002)に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[平成29年6月分]

調査日：平成29年6月20日、21日

区分	地点別出現個体数					
	a	b	c	d	計	
出現 状況	目	5	6	7	4	8
	科	9	11	16	6	18
	種	11	16	20	7	32
出現個体数	37	110	65	26	238	
主な出現種 (個体数、 組成比率)	カワウ (15羽、40.5%)	カワウ (50羽、45.5%)	スズメ (11羽、16.9%)	ウミネコ (7羽、26.9%)	カワウ (76羽、31.9%)	
	コアジサシ (8羽、21.6%)	コアジサシ (18羽、16.4%)	ウミネコ (6羽、9.2%)	カワウ (7羽、26.9%)	コアジサシ (32羽、13.4%)	
	スズメ (3羽、8.1%)	ウミネコ (5羽、4.5%)	ダイサギ (5羽、7.7%)	コアジサシ (4羽、15.4%)	スズメ (20羽、8.4%)	
	ヒヨドリ (2羽、5.4%)	シロチドリ (5羽、4.5%)	ヒヨドリ (5羽、7.7%)	スズメ (3羽、11.5%)	ウミネコ (18羽、7.6%)	
	ヒバリ (2羽、5.4%)	カルガモ (4羽、3.6%)	アオサギ (5羽、7.7%)	ツバメ (2羽、7.7%)	アオサギ (8羽、3.4%)	
	メジロ (2羽、5.4%)	カイツブリ (4羽、3.6%)		ハシブトガラス (2羽、7.7%)	ハシブトガラス (8羽、3.4%)	
		スズガモ (4羽、3.6%)				

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）[平成29年6月分]

調査日：平成29年6月20日、21日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ科	1	40.5	1	ウ科	1	45.5
2	カモメ科	1	21.6	2	カモメ科	2	20.9
3	ハタオリドリ科	1	8.1	3	カモ科	4	10.9
4	ハト科	2	5.4	4	チドリ科	1	4.5
4	ヒバリ科	1	5.4	5	カイツブリ科	1	3.6
4	ヒヨドリ科	1	5.4	5	カラス科	2	3.6
4	ウグイス科	2	5.4	7	サギ科	1	2.7
4	メジロ科	1	5.4	7	ハタオリドリ科	1	2.7
9	サギ科	1	2.7	9	シギ科	1	1.8
				9	ヒバリ科	1	1.8
				9	ウグイス科	1	1.8

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	サギ科	3	18.5	1	カモメ科	2	42.3
2	ハタオリドリ科	1	16.9	2	ウ科	1	26.9
3	カモメ科	2	12.3	3	ハタオリドリ科	1	11.5
4	ウ科	2	10.8	4	ツバメ科	1	7.7
5	ヒヨドリ科	1	7.7	4	カラス科	1	7.7
6	カモ科	1	6.2	6	タカ科	1	3.8
7	ムクドリ科	1	4.6				
7	カラス科	1	4.6				
9	チドリ科	1	3.1				
9	ツバメ科	1	3.1				
9	セキレイ科	1	3.1				
9	ウグイス科	1	3.1				
13	タカ科	1	1.5				
13	シギ科	1	1.5				
13	ハト科	1	1.5				
13	メジロ科	1	1.5				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。